

フィルダス™ 製品規格

三菱ケミカルインフラテック株式会社

機能成形材ビジネスユニット

建築材料部 住宅材料グループ

◆製品名称および構成

〈多孔質パイプ〉

品名	グレード	パイプ本数	濾材タイプ	パイプ長さ
				mm
フィルダス™	SP600	1本 (単管)	XBB または HB	600
	SP500			500
	SP400			400
	SP360			360
	SP300			300
	SP230			230



〈フィルターユニット〉

品名	グレード	パイプ本数	濾材タイプ	エレメント高さ	パイプ長さ
				mm	mm
フィルダス™	S312	3本 (直列)	XBB または HB	1208	1200
	S310			1058	1050
	S308			858	850
	S306			608	600
	S304			408	400
	S303			308	300

品名	グレード	パイプ本数	濾材タイプ	エレメント高さ	パイプ長さ
				mm	mm
フィルダス™	S412	4本 (直列)	XBB または HB	1208	1200
	S410			1058	1050
	S409			908	900
	S408			858	850
	S407			708	700
	S406			608	600
	S404			408	400
	S403			308	300

◆形状

- ・多孔質パイプ：ポリエチレンを用いて星形（10枚花弁）パイプ状に焼結成形した多孔質体。
- ・フィルターユニット：多孔質パイプを所定長さに切断し、3若しくは4本を一列に配列して、ウレタン樹脂にて上部に天板を、下部に封止栓を成形して固定したもの。

◆外観

- ・多孔質パイプ部材：使用上有害となる、ヒケ・ヒビ・カケ・ピンホール・異物混入などの欠陥がないこと。
- ・ポリウレタン部材：使用上有害となる、ヒケ・ヒビ・カケ・気泡・異物混入などの欠陥がないこと。
- ・上部天板エッジ部分の仕上面：顕著な段差・バリのないこと。

◆物性及び性能

- ・常温(23±5℃)における物性値及び性能は、以下の通りとする。
- 尚、各測定方法は、当該JIS規格を参考とする。

	規格値		方法	
	引張強さ	4.90MPa以上		平均値
圧力損失	XBB	441Pa以上980Pa以下	実測値	自社法※
	HB	431Pa以下		
体積抵抗率	1×10 ⁸ Ω・m以下		平均値	参考) JIS C2139-3-1：2018

※自社法：フィルダスパイプ端部より、パイプ表面積に対して、風量：1m³/m²・minとなる様に、パイプ内部に圧縮空気を流入させ、他端部に連結させたマンメーターにより、パイプ内部と大気との圧力差を測定

◆ポリウレタン部材の物性

- ・本フィルタユニットに使用するポリウレタン部材の、常温（23±5℃）における物性値は、以下の通りとする。
- 尚、各測定方法は、当該JIS規格を参考とする。

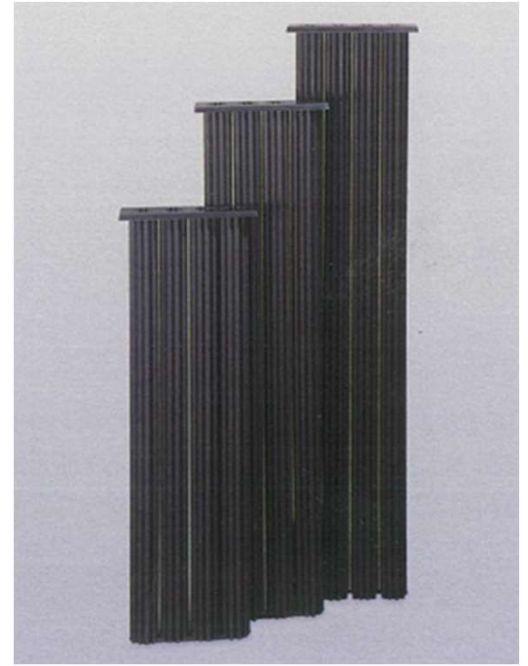
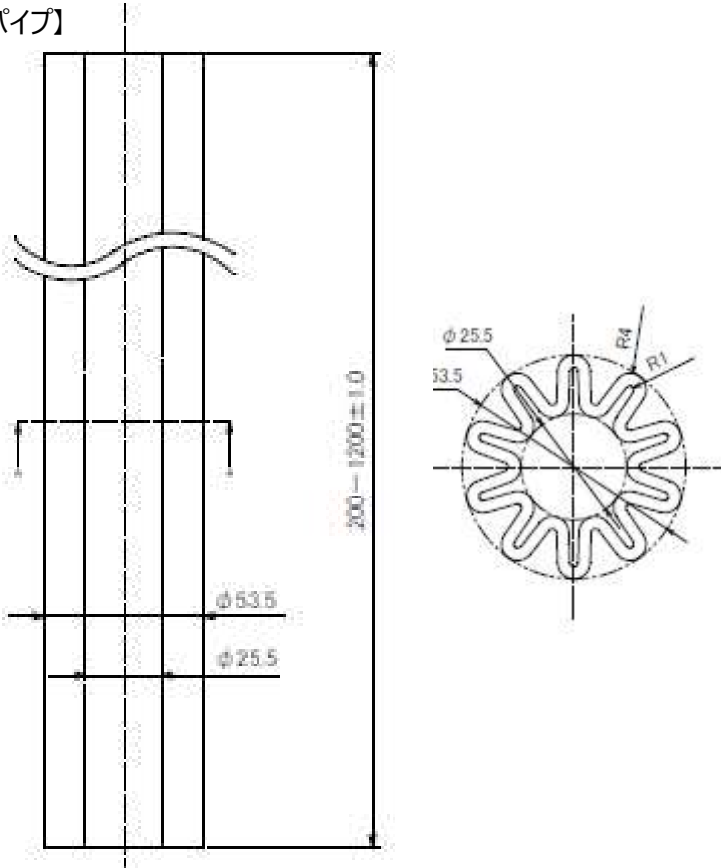
	規格値		方法	
	引張強さ	5.88MPa以上		平均値
アイソット衝撃値	0.98kJ/m ² 以上		平均値	参考) JIS K7110：1999
体積抵抗率	1×10 ⁸ Ω・m以下		実測値	参考) JIS C2139-3-1：2018

◆梱包形態

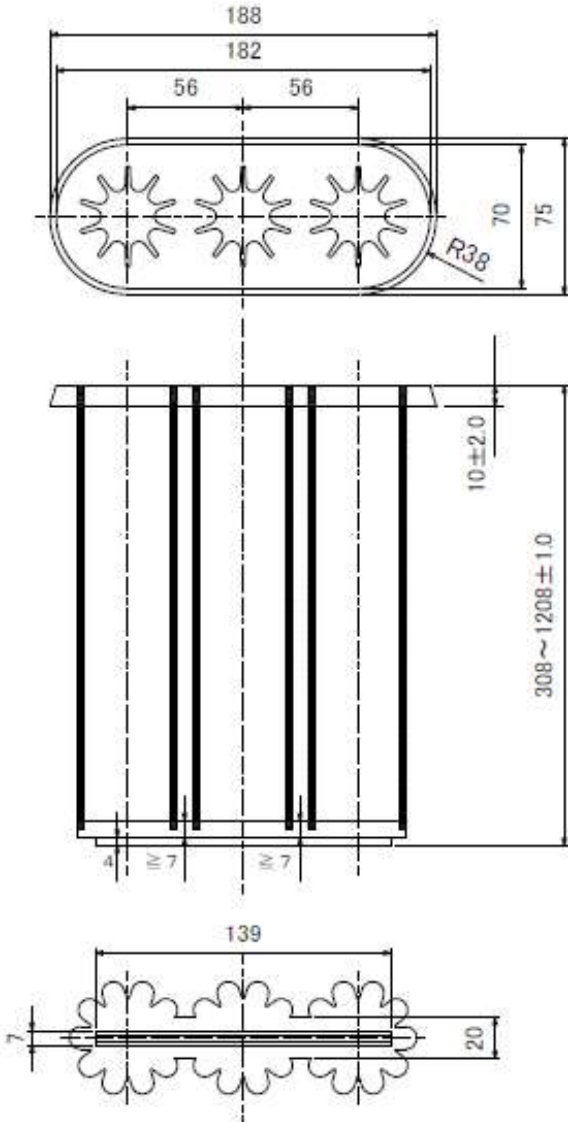
- ・フィルター部材をエアマットシートで梱包し、段ボール箱に梱包する。
- ・緩衝材として、段ボールパッドを段ボール箱両端に2枚使用する。

◆寸法

【パイプ】

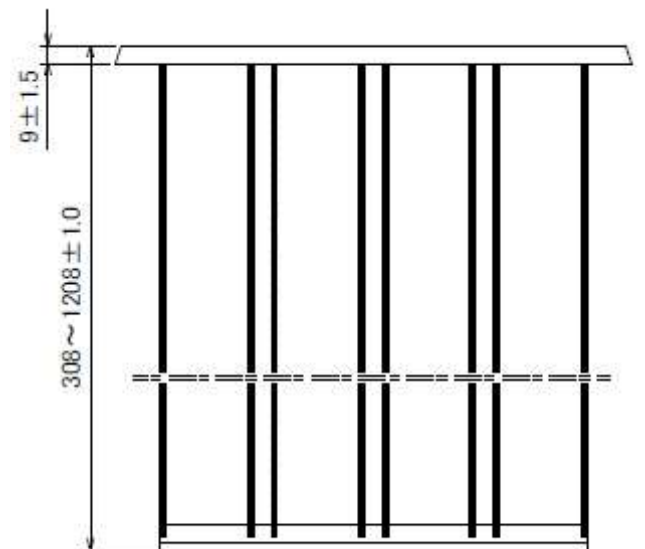
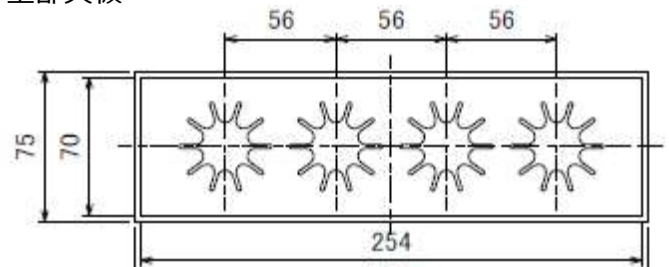


【3本直列 各部位寸法】

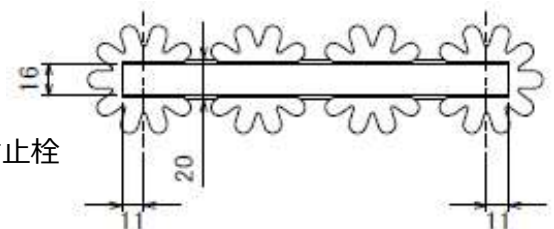


【4本直列 各部位寸法】

上部天板



下部封止栓





取り扱い上のご注意

1. ご使用・保管上の注意点

- プラスチックは一般に温度、湿度、薬品、紫外線、外部応力等により、品質特性が変化しますので、使用条件を十分に把握したうえで設計等をしてください。
- 過度の衝撃は、破損や変形の原因になりますので、取り扱いには十分ご注意ください。
- 製品規格に記載の物性等は代表的な試験測定値であり、保証値ではありません。
用途に対する適合性の判断は、極力実条件に合った方法で評価確認をお願いいたします。
- 適用用途、性能、仕様等で不明な点についてはご相談ください。
- 可燃物ですので、火気を近づけないよう注意してください。
- 製品の周辺雰囲気温度を50°C以下に保ってください。
- 本製品の保管に関しては、水濡れ注意の上、直射日光を避け、低温・低湿で平坦な場所を選び、変形、荷崩れ防止の処置を施してください。

2. 安全衛生上の注意点

- 医療用、その他特殊用途にご使用される場合には、必ずお客様にてその安全性を事前に確認・試験のうえご使用ください。
- 改訂食品衛生法には適合していません。

3. 廃棄上の注意点

- 超高分子量PEは可燃物で焼却可能ですが、焼却時に高温になったり、煤や一酸化炭素ガス発生の恐れがありますので、適切な機能を備えた専用焼却炉以外では燃やさないでください。
- 廃棄物は産業廃棄物として法令に従い、地方自治団体または公認の産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。

- 本資料記載の内容については、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 色調については、印刷の特性上、現物と異なる場合があります。
- 本資料からの無断転載を禁じます。
- 本資料に掲載されていない品質に関してはお問い合わせください。

2023年7月1日発行

文書No. 0000109103